

ウズラ胚の器官培養

要点 : We took each tissue out of a quail blast and performed a cell culture.

Taking out tissues were brain,eyeball,heart,stomach,the bowels,and kidney.

I cultured six days,but the difference between the organ was not seen.

- ① **目的** : 6日目と8日目のウズラの胚から実体顕微鏡を使い脳、眼球、心臓、胃、腸、腎臓などを取り出し各器官を細胞レベルまで切り刻んだのち培養し、培養組織で器官片の集まり方に差異が見られるかを調べる。

実験器具 : シャーレ、遠心分離機、ボルテックス、スポイト、ピンセット、ハサミ、注射針、チューブ、トリプシン、PBS、培養液

② **方法** :

- 1, 6日目のウズラ胚をシャーレに割入れ、胚を周辺の血管や膜から切り離し胚のみを別のシャーレに移す。
- 2, 胚を解剖し臓器を摘出する。摘出した臓器を PBS を入れたチューブに移す。
- 3, チューブに入った臓器をハサミで切り刻む。
- 4, 遠心分離機に3分かける。
- 5, 上澄みを捨て、トリプシン-EDTA を加える。
- 6, 軽くボルテックスにかけた後、脳は室温でその他の臓器は37度で5分間静置しもう一度、遠心分離にかける。
- 7, 培地を作っておくと同時に先ほどの上澄みを捨てる。
- 8, 上澄みを捨てたチューブに培地液を加え混ぜたのち、作った培地に入れる。



- ③ **結果** : 胃と腎臓は培養ができていたが、差異が観察されなかった。

- ④ **考察** : 培地の保存状況が悪かったためか腐敗してしまい、一週間しか育てることができなかった。もう一度臓器を再生させようとする多くの時間と手間がかかることが分かった。

⑤ **結論** : この方法で少しの成長が観察できたので、長期間観察すれば差異が出たかもしれない。